

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

2023 年度

法人名	暮らしネットえん	代表者	小島 美里	法人・事業所の特徴	地域に根ざした事業所を目指している。これまで暮らしてきた家族や地域での人間関係を大切に、利用者の希望に添って生活の継続をしていただけるようつとめている。小規模多機能型介護の特性を活かし、出来る限り柔軟に対応して利用者やご家族を支えている。職員間では情報の共有、互いの質の向上に努めている。民家改修型の建物で、家庭的な雰囲気を感じている。利用者、ボランティア、職員が共に過ごす時間が心地よいと感じられるよう努力している。
事業所名	多機能ホームまどか	管理者	菅 嘉子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体（評価シート提出者）	利用者	利用者家族（評価シート提出者）	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	2人	2人	4人（1人）	0人	0人（1人）	1人	0人	3人	1人	15人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員から受けた研修のアンケートをとり、希望に沿った研修の受講を検討・実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受講したい研修のアンケートを取り希望に沿った研修の受講をうながした。</li> <li>対面、集合研修への参加の機会はあまりなくオンラインの研修が中心となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集合研修、対面研修にはできる限り参加するように研修係が中心となって調整をする。</li> <li>自己評価の結果、事業所として利用者の～したいを引き出せていないと感じている職員が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スタッフが利用者から聞いた「～したい」を容易に記載できる用紙を作成し共有する。</li> </ul>
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>駐車スペースに限りがあるため別の場所に駐車する等の工夫をして玄関前のスペースの検討をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数日は離れた駐車場に車を停めた。数日に留まったのは送迎や訪問の兼ね合いで車を頻回に使うためである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>（グループホームえんだが）カギをかけていないと防犯上不安だという意見があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防犯対策のための施錠は夜間のみ、日中は行わず継続する。</li> </ul>
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度はまどかコンサートを開催し、それに合わせて広い地域に周知する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンサートは無事開催ができた。利用者だけでなく地域の方たちにもたくさん来ていただくことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の防災訓練に参加できた。そしてまどかの防災訓練にも地域の方が来て下さった。この関係を継続しいざというときに助け合える関係を築いていきたい。</li> <li>はじめてまどかへ行ったとき、場所がわからず近所の方が教えてくれた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、地域の防災訓練に参加する。また、まどかコンサートを継続して開催したい。</li> </ul>

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ等感染症の状況を見ながら、日頃から行っている散歩以外に、月に一回は外出の機会をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・桜や牡丹、バラ園に花見。れきしテラスや市のギャラリー、初詣等に出かけたが行けない月もあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・真夏や真冬は利用者を連れての外出ができなかった。利用者とともに行事に参加できる機会をもち地域との関係作りをしていきたい。</li> <li>・数名でのドライブに行けてうれしいと言っている（利用者家族）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続きオレンジカフェ等、月に一回以上は外出する。</li> </ul>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人が支えている例を示して検討いただく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の心配な方をお一人取り上げて会議の場で話し合った。包括、民生委員もその方を認識しており、情報共有し継続して見守っていくよう統一ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報の観点からどの程度話してよいか迷うことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の守秘義務やモラルに則った上で、事例検討を行なう。その内容はスタッフ間でも共有する。</li> </ul>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害のBCP（業務継続計画）を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度中に完成することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・完成はしたがロールプレイングや訓練はこれからである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフ間で災害用BCPに沿って訓練、ロールプレイング等をして、意見を出し合い修正する。</li> </ul>